

911.3
≠

切紙口訣三箇條

全

能事著露林

新式といひ口能事著露林等山形地ゆゑ元は石垣
用以有二三之其案知く人其しりく一治まのり
此を志す一立し一く末代せり山形地ゆゑ此を
とてしるる

石城を水守

臨の條より白水守いし申あを多りしをけり今も
多りしを多りしを溜と守るに能事著露林
しるる

鳩吹

昔より鳩吹は水守に多し二句吹の字も多し風

沙二寸去... 越吹... 半... 次...

...

未

... (multiple lines of cursive text)

...

... (multiple lines of cursive text)

中...

... (multiple lines of cursive text)

...

... (multiple lines of cursive text)

紅雲の玉田に於ては子少也月...
夕ぬるに夕ぬるにけりけり合女も若しと
昔もこの世はあまたすかゝる白くまよふに
りてをよき事と云ふありと口しをのたふ
かゝる西士のあまのりてをよき事と云ふ
是も月夜の事と云ふに似たり

免れりても若しと云ふを免れりても角もといふ声
信てりても若しと云ふを免れりても角もといふ声
河上を山世と云ふ人といふこと

右の山世と云ふ人といふこと

免れりても角もといふ声
河上を山世と云ふ人といふこと

免れりても角もといふ声
河上を山世と云ふ人といふこと

汗流 左右

十平歌

十平歌 十平歌 十平歌

是と歌を、大平神流あ〜平とく〜知る人世
あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

あまのりても若しと云ふを免れりても角もといふ声

巻一

くし姫

臣民の心を

存ぬの心は

お人傷れ御魂水とてこたへしに宇はりし

たふり

下の句こそるり

ふかたも只一ねつとていふに

おふの箇口決

青丹なる

青丹とは増えぬことすしまたの如の注指すまたの口決も

はらひのうらみなるのうらみ二句をい但三句をい

おまらぬ二句をい

昨日身はゆか丹言の流とて又青いおぬ

天皇記と別くとも徳の流りり袖中ぬ

おまらぬの古流りもよし流るる

おまらぬ

おまらぬ

美しき流りの流り

おまらぬ

おまらぬ

おまらぬ

おまらぬ

坂よりうねりくさるるにいとほし

万葉 山河の井くさるるにいとほし
雑 山河の井くさるるにいとほし

目 山河の井くさるるにいとほし

川 山河の井くさるるにいとほし

新 山河の井くさるるにいとほし

天竺の事

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の事

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の事

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の事

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の事

天竺の地味は西の海に接する

南の海に接する

天竺の事

歌のまじりてははなれぬ

まじりてははなれぬ

又二
又三
又四

口活

又五
又六
又七
又八
又九
又十

又十一
又十二

又十三
又十四
又十五
又十六
又十七
又十八
又十九
又二十

又二十一
又二十二

又二十三
又二十四
又二十五
又二十六
又二十七
又二十八
又二十九
又三十

又三十一
又三十二
又三十三
又三十四
又三十五
又三十六
又三十七
又三十八
又三十九
又四十

又四十一
又四十二
又四十三
又四十四
又四十五
又四十六
又四十七
又四十八
又四十九
又五十

又五十一
又五十二
又五十三
又五十四
又五十五
又五十六
又五十七
又五十八
又五十九
又六十

又六十一
又六十二

又六十三
又六十四
又六十五
又六十六
又六十七
又六十八
又六十九
又七十

又七十一
又七十二
又七十三
又七十四
又七十五
又七十六
又七十七
又七十八
又七十九
又八十

又八十一
又八十二

又八十三
又八十四
又八十五
又八十六
又八十七
又八十八
又八十九
又九十

又九十一
又九十二

又九十三
又九十四

又九十五
又九十六
又九十七
又九十八
又九十九
又一百

又一百一
又一百二
又一百三
又一百四
又一百五
又一百六
又一百七
又一百八
又一百九
又一百十

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries from the top page. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink.

原 乃、予、山、月、也、也、

亦、命、

乃、予、山、月、也、也、

乃、予、山、月、也、也、

乃、予、山、月、也、也、

亦、命、

乃、予、山、月、也、也、

亦、命、

乃、予、山、月、也、也、

新川の淵に暮るる夕の霞を
白く白く暮るる夕の霞を
白く白く暮るる夕の霞を

連 暮るる時くは夕の霞を
暮るる時くは夕の霞を

自白言 暮るる時くは夕の霞を
暮るる時くは夕の霞を

暮るる時くは夕の霞を
暮るる時くは夕の霞を

暮るる時くは夕の霞を
暮るる時くは夕の霞を

如くは暮るる
暮るる時

如くは暮るる 暮るる時くは夕の霞を

貞室

正章

此の書は... (faint handwritten text)

右の書は... (faint handwritten text)

宝暦十三年... (faint handwritten text)



